平成 28 年度千葉県介護人材確保対策事業
いすみ市介護サービス事業者連絡協議会　第 4 回研修会(報告書)

日時　平成 29 年 3 月 4 日(土)13 時 30 分から 17 時 00 分
場所　大原公民館　大会議室
内容　「私たちが虐待の当事者にならないためにはどうすればよいのか」
　　講師　朽名　高子氏　　朽名社会福祉士事務所
参加者　　37 名

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（司会進行　柳瀬）

１、開会　会長挨拶　（吉田好美会長）

いすみ市では椿まつり、梅も満開の時期。寒い冬から春へという中で虐待の研修会を行う。「冷たいごはんとお茶は我慢できるけど、冷たい言葉は我慢ができない」という言葉がある。虐待にはたくさんの原因がある。今日の研修を必ず職場に反映させてもらいたい。

２、講義　（朽名高子講師）　13：40～15：20（資料参照）

44 歳知的障害のある娘がいる。妹と弟が姉の犠牲にならない人生を送らせようと無理して頑張った。結果腎臓を悪くした。昔は完ぺきだった。だから体を壊した。それに気づいて重荷をおろしながら来た。50 歳すぎに娘の施設入所を機に市役所へ勤務。なりたくてなった障害や認知症じゃない、という権利擁護の視点から、何人か後見受任している。味方を増やす、仲間づくりための支援をしている。

本日は虐待についての知識を深める。
１）虐待の種類を理解する。
２）虐待が起きる背景を知る
３）虐待の対応を学ぶ
・法律と言う根拠があるから訴えることができる。課題を見つけなければ解決にならない。
・家族からボソッと出た言葉にちょっと丁寧に対応すること。
・本人はなかなか言わない。家族と本人で聞き取りの人を変える工夫。
・困難が生じていると言う事実に注目すること。
・特別に悪い施設で起こることではない。どこにでも虐待は起きる。
・気づかないうちに加担している場合がある。自覚がなくても傷ついている障害者、高齢者がいる。

・本人が決めるからまかせる≒無視、無関心。

・事例。訪問した家がゴミだらけ。やっと通れる奥の部屋で藁の上に障害のある息子が寝ている。高齢の父が世話。父は癌治療中。入浴しないので臭い。敗れてゴムもゆるゆるの服。通所時は着替える。父「これだけ見ていて何が悪い」。市は虐待としない。この温度差。その後別々に入所。家の中の虐待は分からない。父も息子も生活のしづらさは感じている。

・事例。トイレの頻回な高齢者をトイレに閉じ込める。施設は虐待ではないと言う。虐待はエスカレートする。「ちょっと待ってね」も虐待。早く気付いて芽を摘む必要。

・家で引き取ることのできない重度な障害者の親は指摘できない。

・本人が訴えることがないのでやられ損になることも。命を落とした事例もある。

・生活のしづらさを分かること。自分を責めるのでなく、気付けることの重要性。

・見てみぬふりで感覚が消えてマヒしていくことになる。何もしていない自分が悪いと言う罪悪感を持つ。働くことのモチベーションが下がる。孤立し、離職へ。見てみぬふりが一番虐待を増やしてしまう。

・見えている以外のところに背景がある。貧困、精神疾患、介護疲れなど複合的な要因。一つ解決すれば大丈夫と言うことはない。様々な専門性での対応が必要。

（　　14：40～14：45　小休憩　　）

・接し方がわからない時、施設長の言う通りにしてればいいんだ、となる。モチベーションのさがる状況。

・26 年度千葉県虐待案件。特養 2 施設。1 施設では 8 件。大声をあげた人を拘束。内部告発がない限り表面に出てこない。被害者、通報者から聞き出せない、荒立ててほしくない入居者もいる、と担当者談。

(　　15：20～15：30　　休憩　　)

グループワーク　（朽名高子講師） 15：30～16：30

6 グループに分かれて実施①各自より例を挙げる。②グループ内で披露しあい、その中の一例をロールプレイする。

グループ発表

イ）在宅ヘルパー事案。寝たきり、ショート週 5 日、ヘルパー(オムツ交換)週 2 日。2 日目に行くとお家族がオムツ交換していない。暖房なし。洗浄水は冷水。本人は不満言わない。ヘルパーからケアマネへ報告。ショート先との連携し、家族との会話により精神的軽減を図る。家族の気づきを図る。家族の無自覚の虐待。E（利用者の観察者）⇒寒い。水が冷たい。オムツが気持ち悪い。娘以外とは話している。

ロ）デイサービス事案。送迎時に家族の援助薄い。週 3 日デイ。家族の運んだ食事を食べてない。食事、生活全般のことをもっとしてもらいたい。後妻の息子であることの負担感を軽減できないか。サービス調整会議での議論をすること。してくれていることへの注目も大事。E⇒息子が月一回でも来てくれることが嬉しいからそれ以上は頼みたくなかった。

ハ）夫と二人暮らし。入浴介助であざが見つかり、どんどん濃くなった。デイサービスと訪問介護、ケアマネ事業所がある。「自分でぶつけた」から「夫につねられた」「施設で暮らしたい」の発言となり入所。関係は作れたが、夫からの聴き取りが不十分と反省。E⇒60 歳、家を建てたばかり。夫が怖くて言えなかったけど施設に入れた。でも本当は家に居たかったかも。

二）H12 頃。介護 3。一軒家。自室に食事運ばれる。週一回ヘルパー。孫もいる 5 人世帯。「寂しい」との訴え。虐待か。ヘルパーへの助言者がいれば。E⇒なぜ孫が来ないのかな。好きなものを食べたい。もっと家族に大事にしてもらいたい。

ホ）通所介護のレク場面。集団行動が苦手で自傷行為あり別の部屋ですごしている。上司からは仲間に入れるよう言われ、傷が増えれば家族から言われる。他のスタッフの理解や協力不足。好きなキーボードやクラシックを流すなどの工夫を。E⇒叩く音が好き。クラシックがわかることはすごいこと。

ヘ）レク(書道)場面。本人の確認無く掲示。上手に見えたが、本人は震えた文字を嫌がっていた。指導者になってもらうと良かった。E⇒もともと先生。こんな字は私の字じゃない。恥ずかしい。見られる場所に貼るなんてとんでもない。やっぱり職員は分かってくれない。信用できない。「上手」の言葉が自分をバカにしている、プライドを傷つけられる思い。

講師講評

・事実の解明が大切。
・犯人探しよりも被害者側、加害者側の真の納得や理解を。
・一人が頑張るのでなくチームで頑張ること。

以上